



5月1日に地域おこし協力隊として着任した西村純一さん。今年では地元の農家で栽培技術を学んでいます。

ど、酪農基盤の安定化を図るため、大規模農業法人が進めている畜産クラスター事業への支援を行うとともに、畜産・野菜生産においても、チャレンジしやすい環境づくりを進め、それらの取り組みに対して、必要な支援に努めます。

担い手対策として、新規就農の意欲を持った地域おこし協力隊員を任用し、営農技術の習得など、自立に向けた研修を行うとともに、新規就農者への支援の拡充を図り、次代を担う多様な人材の確保に取り組めます。

林業は、資源の平準化を念頭に、永続的な資源の循環利用を促進し、林業専用道などの路網整備による未整備森林の適切な更新・保全を

図るとともに、本町の豊かな森林を未来へ引き継いでいくため、人材育成や環境教育に取り組めます。

漁業は、記録的な漁獲の不振が続いている中、天然資源に頼らない「新たな増養殖事業」の必要性が高まっています。

増養殖事業は、漁業者自らの取り組み、漁業者が民間企業の力を借りての取り組み、民間企業による取り組み、さらには、前浜だけではなく陸上での展開などが考えられることから、可能性を見極めながら、新たな取り組みに対する支援に努めます。

商工業の振興は、現下の状況を踏まえ、迅速かつ効果的な経済対策を展開するため、町商工会と連携し、ヒト・モノ・カネの地域内循環を推進することにより、事業者の活力の向上を図ります。

また、地域経済の回復と併せて、まちの賑わい・活力の創出についても並行して取り組んでいく必要があることから、地域おこし協力隊員を活用し、交流人口や特産品販路の拡大など、まちの活性化に向けた取り組みを進めます。

しらぬか物産センター恋問館は、改築に向けて町や白糠町振興公社の関わり方を含め、建物の規模や資金調達など、さまざまな角度か

ら具体的な検討を進めます。

しらぬか魅力発信事業については、フォトコンテストを通して、「みんなに見せたい白糠町」を町内外の方々に再発見していただくとともに、作品をプロモーションツールとして広く活用し、交流人口や関係人口の拡大を図ります。

第一次産業や商工業の青年就業者を対象とした「青年就業者海外等研修事業」については、新型コロナウイルス感染症の状況を慎重に見極めながら、各分野で将来を支える人材の育成に努めます。

「ふるさと納税」は、地方税法に基づき適正な制度運用のもと、物産・産業振興、地域経済活性化、

フォトコンテストを開催し、写真を通じて魅力ある白糠町を再発見するとともに、応募作品をプロモーションツールとして広く活用します。



移住・定住を推進するため、寄付をいただいた皆さまとのつながりを大切にし、さらなる本町のPRと交流人口の拡大を図ります。

再生可能エネルギーの取り組みは、地熱資源の試験井掘削が本格的に開始されることから、調査が円滑に進捗するよう協力します。

一貫した掘削技術教育機関としては国内初となる「掘削技術専門学校」が、令和4年の開校に向けて進行しています。本町の地域活性化はもとより、我が国における将来の地熱開発にも大きく寄与することから、国、北海道など関係機関と連携の上、必要な支援に努めます。